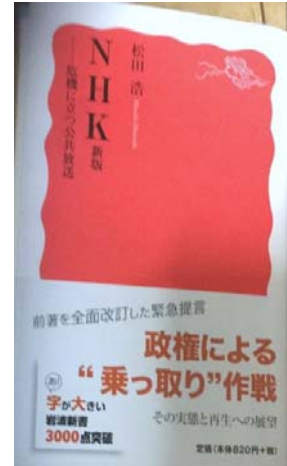


『NHK 新版』を読む

写真は「危機に立つ公共放送」という副題の松田浩さんの新著である。表紙カバー裏から。一公共放送の使命とは何か。創立以来最大の「自主・自律」の危機に直面するNHK。権力によるトップ人事支配に「民主主義の危機」と警鐘を鳴らす著者が、構造的要因を解明し、再生への展望を示す。NHK 研究歴 50 年の第一人者が、克服すべきすべての課題に鋭くメスを入れる。定評ある前著を全面改訂して問う緊急提言。



いま、なぜ NHK なのか。なぜ公共放送のあり方を国民的レベルで議論することが、緊急に求められているのか。最大の理由は、NHK が政府のトップ人事支配によって「独立性」を脅かされ、政府の「国策放送局」(広報宣伝機関)へと変質しかねない事態が進行しているからである。第 2 の理由は、NHK の危機(自主・自律への脅威)が民主主義社会における「公共圏」の危機、つまり 70 年前、敗戦を契機に私たちが初めて主権者として手にした「知る権利」や多元的で多様な言論・表現の自由など、戦後民主主義の基本的価値への脅威と深くつながっているからである。

本書から戦後の NHK の歩みがよくわかる。13 日に「NHK、政治家ネタ没」をレポートしたが、戦後まもない 1954 年に時局風刺で人気を集めたラジオ番組「ユーモア劇場」(旧「日曜娯楽版」)が政府・自民党の圧力に抗しきれず姿を消す。当時の郵政大臣は「NHK は国策の徹底を」と語っている。NHK の屋台骨をゆさぶった大事件、自主・自律をめぐる 8 年間にわたって争われた番組がある。2001 年 1 月 30 日、NHK 教育テレビで放映された ETV2001「問われる戦時性暴力」(シリーズ「戦争をどう裁くか」第 2 回)がそれである。戦時中の従軍慰安婦問題を扱ったこの番組は、放送に至る過程で政治がらみの大幅「改竄」が行われた。

この番組改編事件では、政治家の介入や番組改編を報じた朝日新聞の特報記事をめぐって NHK と朝日新聞、取材を受けた政治家と朝日新聞の間で激しい論争があった。その後、裁判へと推移して東京高裁判決において、番組改編に至る行動を次のように認定した。放送直前に NHK 幹部が従軍慰安婦問題に批判的な安倍官房副長官(当時)を訪ね、安倍が「慰安婦」問題について持論を展開したうえで「番組は公正中立に」と要望した。現在の安倍政権とそれに呼応した NHK の動きを考えるうえでも、忘れられない事実だ。

視聴者のなかに「市民」を育て、その視聴者・市民に依拠し支えられることによって政府からの「独立」を守り、「権力監視」の役割を果たしてきたイギリスの BBC と、視聴者よりも政府・与党の側に顔を向け、政府の「パートナー犬」としての道を進んできた NHK、この両者の決定的な違いが、今日の NHK の危機につながった、というのが筆者の結論である。

(2015 年 1 月 16 日)